

基礎工事



家の基礎の形に合わせて地面を掘削します。
碎石を敷き、転圧の後基礎の基礎作りをします。
重機を使って、家が建つ基礎となる部分を掘り下げています。
この状態は、碎石を敷き詰めて、固めた後です。



地面からの湿気が基礎に侵入しないよう
防水シートを敷き、
基礎形状を正確に造成するため捨てコン
を外周部に施工します。

基礎配筋



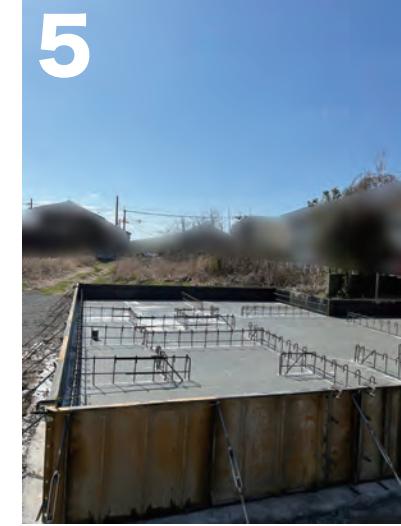
基礎配筋とは、基礎の鉄筋部分を組む工程のことです。
基礎の設計強度を出すためのとても重要な工程です。

配筋検査



第三者機関のJIO配筋検査
基礎の鉄筋が正しく配置されているか、
本数に間違いはないか、それはないか、
などしっかりチェックする検査です。
配筋検査は基礎工事の一環とされ、
コンクリートを打設する前段階で行われます。

生コン打設



配筋検査が終了したら、生コンを床ベース部分に
打設します。品質管理もしっかり行います。
気温によっても強度が変わる為、夏場と冬場で配合
を調整します。
注入された生コンを平板に均すのは職人の長年の技術。

型枠組み立て



設計図に沿って型枠を組み立てていきます。
型枠は、基礎を作ると、コンクリートを
流して固めるために設置する枠です。
枠は、木製や鉄製が使用されます。
コンクリートを流し込む前に行なうのが、
アンカーボルト設置作業です。
アンカーボルトは、建物の構造材料と基礎
をつなぐ、重要な金属製の部材になります。
アンカーボルト設置作業後に、コンクリート
を流し込みます。

型枠外し



養生の期間が終わったら型枠を外します。
コンクリートの状態（ヒビや割れ、不良）
などをないかしっかりチェック。

配管



設備屋さんが給水（青）と給湯（赤）の管を
配管していきます。
架橋ポリエチレン管
周りに保温材がついている管を使って配管をしていきます。

土台



土台が並べられていきます。
これらはすべて組み合せており、
基礎と土台の間に“基礎パッキン”という部材を挟み
こんでからボルトによって固定されています。

鋼製束、昔は木でしたが、今は鋼製束を使ってます。

断熱材



土台が終わった後は、
土台の間に床の断熱材を敷きこんでいきます。
最後にその上から剛床と呼ばれる床パネルを
敷いて、釘で固定します。